次世代を担う若手女性農業者の育成とネットワーク化

活動期間:平成27年度~(継続中)

- 〇上北地域の女性農業者組織は高齢化が進んでいることや、年齢差もあることから若手女性農業者は加入しづらい状況にあった。
- 〇このため、若手女性農業者をリストアップし、<u>若手女性が楽しく参加しやすい「美」「食」と「農業」を組み合わせた講座を開催</u>することで、次世代農業女性リーダーの育成とネットワーク化を推進した。
- 〇また、上北地域の「農業」「食」「元気な若手農業女性」を全国に情報発信することにより、<u>上北地域農業全体のイメージアップ</u>につなげている。

具体的な成果

1 若手女性農業者のリストアップ

■上北地域の若手女性農業者を「かみきた 畑美人」として登録制にしたところ、<u>58名</u> が登録(平成28年7月5日現在)

2 次世代農業女性リーダーの育成

■「かみきた畑美人講座」の開催は、将来 審議会委員や農業委員等に登用される ような農業女性リーダーを育成するととも に若手女性農業者の情報交換、交流の 場となっている。

○延べ受講者数○人 → 74名





3 若手女性農業者目線での情報発信

- ■SNSを活用した全国への情報発信
- ■地域イベント開催、首都圏でのイベントへ の参加により、上北地域の農産物と活動 のPRにつながっている。



普及指導員の活動

1 若手女性農業者の情報収集

- ■関係機関や農家の情報をもとに実際に 面談しながら事業趣旨を説明し、リスト アップ
- ■登録時の意向調査

2 かみきた畑美人講座の開催

■「かみきた畑美人講座」は、意向調査をもとに「美」や「食」と農業経営や男女共同参画を組み合わせた若手女性農業者が楽しく参加しやすい内容を企画

3 Facebookページの開設と運営

■講座やイベントの情報提供のほか、 かみきた畑美人を紹介



普及指導員だからできたこと

- ・普及指導員のそれぞれの専門の情報力 の結集と<mark>軽いフットワーク</mark>をいかし、 若手女性農業者を勧誘した。
- ・登録者の意向を把握し、まずは参加してもらうことを第一に講座の内容は堅苦しくならないよう工夫している。

青森県

次世代を担う若手女性農業者の育成とネットワーク化

活動期間:平成27~継続中

1. 取組の背景

上北地域には、農業者組織として農業経営士会、4HC(以上2団体は現在男性のみで構成)、女性組織ViC・ウーマンの会、生活研究グループがある。しかし、ViC・ウーマンの会は平均年齢57.6歳、生活研究グループは平均年齢63.0歳と高齢化が進んでおり、若手女性農業者の加入はほぼない。また、地域内にあるJAに状況を聞いても、若手女性農業者のJA女性部への加入は皆無に等しい状況であった。

このような中、若手農業女性からは、

- ①組織に所属することが煩わしい
- ②既存の組織は、年齢差があったり、男性ばかりで参加しづらい
- ③子育てが忙しい
- ④情報は、インターネットから得られるため、組織への加入の必要性が感じられない

等の理由から、組織への参加を敬遠する傾向があった。

しかし、将来、農業委員や農協役員等に登用されるような農業女性リーダーの育成が必要であり、20代から40代前半の若手女性のネットワーク化を推進し、資質向上を支援することとした。

2. 活動内容

(1) 若手女性農業者の情報収集

指導対象となる若手農業女性の掘り起こしのため、関係機関や農家の情報をもとに、実際に個別訪問した。時には偶然見かけた農作業中の女性に声をかけるなどし、チラシの配布と面談をしながら個票を作成し、リストアップした。

事業趣旨に賛同した若手女性農業者は、「かみきた畑美人」として登録制度とした。

(2) 次世代農業女性リーダーの育成

登録した「かみきた畑美人」を対象に、農業経営や男女共同参画と「美」「食」を組み合わせた「かみきた畑美人講座」を開催した。



配布チラシ

講座は、子育て世代が参加しやすいよう託児支援を行ったり、開催する時間を短時間にする、一部、二部に分け、一部分でも参加できるようになど参加しやすい環境整備を図っている。

また、講座のほかにも、それぞれの悩みや希望などの意向を把握出来るように女子会を開催し、積極的に情報交換できる場を多く提供している。

(3)情報発信と上北地域の農業、農産物のPR

情報発信の有効な手段として facebook ページを開設し、講座やイベントの情報、かみきた畑美人の紹介を行っており、アクセス数も増えている。

これらの活動を地域内に周知するために開催した「かみきた畑美人マルシェ」では、単なる販売だけでなく、畑美人講座で習得した技術や知識を活用する場とし、簡単にできる野菜料理の紹介や食育コーナーを設置し、地元産野菜の消費拡大をPRした。

また、首都圏でのイベントでは知事のトップセールスに参加し、元気な上北地域農業をPRしたり、マルシェで野菜や加工品の販売体験を行った。



facebook で畑美人を紹介



首都圏での販売



ヤッケでスープの試食会

3. 具体的な成果

- (1) 関係機関の中からは「若い農業女性はいない」という声が多い中、少ない情報をもとに直接訪問した結果、58名が「かみきた畑美人」として登録した。(平成28年7月5日現在)
- (2) 「かみきた畑美人講座」は、多忙な女性の時間の上手な使い方や時間短縮料理、紫外線の予防や腰痛予防、ガン検診の薦めなどテーマは多岐にわたり、参加者から好評を得ている。
- (3) イベントへの参加は、これまで直接販売をしたことがない若手が消費者 の声を聞くことにより、今後の生産意欲の向上や積極的な経営参画、経営 者意識の向上につながっている。
- (4) 「かみきた畑美人」は、組織化することの煩わしさがなく、『ゆるいつながり』を大切にしている。講座や女子会への参加は、農業という同じ職業の同世代とのつながりができ、相談や情報交換を通して連帯感が生まれ、農業経営者としての意識の向上とスキルアップにつながっている。
- (5) 「かみきた畑美人」の登録により、若手女性農業者がこれまでつながりがなかった県行政の情報を得ることができ、補助事業の活用やステップアップに向けた他の研修への参加の動きも見られるようになった。

4. 農家等からの評価・コメント

(かみきた畑美人登録者Aさん30代)

県外から嫁ぎ、これまでは、家と畑、子供の学校の行き来だけであった。 そのため、同じ町の中に同世代の同じ職業の人の存在もわからなかった。畑 美人に来るようになり、友達ができ、情報交換できることがなによりもうれ しい。

(かみきた畑美人登録者Bさん40代)

今までは、子供の行事と雨の日以外、農作業を休むことができなかった。 講座や集まりに参加することで息抜きになっている。勧誘するときも、自分 だけでなく家族にも説明があったため、参加しやすく、助かっている。

5. 普及指導員のコメント

(上北地域県民局地域農林水産部 主査 橋本陽子)

始めるまでは、本当に若手女性農業者を掘り起こすことができるか、参加 してくれるかが不安であったが、参加者同士がメール交換していたり、「今 日来て良かった!」などの感想を聞くと普及指導員としてやりがいを感じる。

「かみきた畑美人」美・食・楽クローズアップ事業(地域県民局重点枠事業)として、2年間取り組んでいるが、人材育成は、2年間で結果がでるものではないため、せっかくできた"つながり"を普及指導対象としてつなげていきたい。

6. 現状・今後の展開等

若手女性農業は、

- ①もともと農家の跡取り娘として
- ②結婚を機に農業に携わった
- ③実家は農家であるが夫は非農家で結婚後に実家を手伝う
- ④実家も嫁ぎ先も非農家で職業(パート)として農業を選択
- の4パターンに分かれ、また、経営類型によっても農業に対する考え方や希望する講座内容、参加できる時間帯、時期も異なってくる。

そのため、今後は、経営参画レベル、経営類型、地域等の細かいグループ 分けをした支援が必要である。